

二宮 淳 議員

(一問一答方式)



- ①長高水族館
- ②高齢者医療
- ③鹿野川ダム放流警報サイレン
及び防災行政無線
- ④学校健診後の治療状況等

長高水族館について

問 存続が危ぶまれる長高水族館についてどう考えるのか。

答 長高水族館は、一般公開日には800人を超える来館者となることもあり、今では長浜地域のシンボルです。部活動で得られた研究成果は、日本学生科学賞最高賞である内閣総理大臣賞を含む数々の賞を受賞されるとともに国際大会にも出場されるなど、その活躍は顕著なものがあります。

長高水族館の施設や設備の老朽化への対応、部員数増加に伴う対応など、高校の部活動における環境整備については、まずは県教育委員会が主体となり検討いただく課題と考えていますが、長浜高校や長浜地域における長高水族館の重要性が増していること、また、本年7月に県教育委員会が公表した県立学校振興計画案で、長浜高校は生徒の全国募集実施校として、地域から学校存続のために必要な支援が得られていることから、魅力化推進校の基準が適用されることになっており、本市としても長高水族館の存続を切に願うものです。

今後水族館の存続が困難になるという喫緊の課題には、早急に市として何ができるのかを検討し、長浜高校とも協議を進めていきたいと考えています。

高齢者医療について

問 高齢者医療の格差解消に向け、民間と協働した医療と介護の情報連携など社会資源システムの構築が必要と考えるのがいかがか。

答 本市では、第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画において、在宅医療の充実及び在宅医療・介護連携を図るための体制整備を推進するために、喜多医師会が中心となって在宅患者の生活を支

える体制の構築を図っています。

ソフト面では、医療や介護従事者などを対象に学術講演会を開催するなど人材の育成に努めるとともに、在宅医療・介護困難事例等の検討会を開催し、多職種間で情報を共有する人的ネットワークを構築しています。ハード面では、医療機関同士で情報を共有できる地域医療情報ネットワーク、通称「だんだんネット」を喜多医師会が整備し、市内6つの医療機関が登録して、さらなる利活用の拡大に向け、関係機関と行政が連携して検討を進めています。

本市としても、デジタル技術の活用が高齢者医療の格差解消にも貢献するものと認識しており、今後は皆様のご意見を伺いながら、現在の各種課題について、医療・介護の両面から整備、解決を図り、それぞれが持つ社会資源を双方向で有効に利用できるシステムの構築に努める考えです。

学校健診後の治療状況等について

問 学校健診で要受診とされたが未受診となっている子供の受診率を高めるために、学校や行政としてはどのように考えているのか。

答 毎年4月から6月の期間に学校健診を実施し、疾病または異常の疑いが認められる場合は、健診結果と併せて医療機関での受診を勧奨する文書を保護者に配布しています。

令和3年度、健診後に要受診とされた児童・生徒のうち、未受診または受診不明の割合は歯科57.9%、眼科58.2%、耳鼻科69.0%、内科46.8%と高い割合ですが、経過観察や症状が出た場合に必要に応じて受診を勧奨している慢性的な疾患も一定数含まれており、発症しない場合や軽度の場合は、家庭の判断で受診していないことが要因と考えられます。

学校では、保健だよりなどで定期的に受診勧奨を行っているほか、個人懇談等を利用し、学級担任や養護教諭から詳細に説明等を行い、受診率の向上につながるよう努めています。教育委員会としても、医療機関への受診を勧奨する際に「子ども医療費助成制度」といった受診しやすい制度も改めて周知することで、保護者や本人が安心して受診できるよう工夫し、受診率の向上に努めたいと考えています。